

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月1日
情報ソースの調査日	2020年5月9日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月27日
日本語タイトル	COVID-19の高齢患者における呼吸リハビリテーション： 無作為化対照研究
情報ソース	Complementary Therapies in Clinical Practice
情報のカテゴリー	無作為化対照研究、高齢者、COVID-19、呼吸リハビリテーション、肺機能、生活の質、心理状態
発信地域	中国
DOI	DOI: 10.1016/j.ctcp.2020.101166
URL	<a href="https://doi.org/10.1016/j.ctcp.2020.101166">https://doi.org/10.1016/j.ctcp.2020.101166</a>
要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の COVID-19 患者に対して呼吸リハビリテーション（呼吸筋トレーニング/咳の運動/横隔膜トレーニング/ストレッチ/家庭での運動）が身体機能や QOL、精神面にどのような影響を及ぼすかを検討した。</li> <li>・効果判定： プレチスモグラフィーおよび一酸化炭素（DLCO）の拡散肺容量を含む肺機能テスト、6分間歩行テスト、QOL、SF-36、FIM、精神状態テスト（SAS 不安と SDS うつ病）を実施。</li> <li>・介入効果： 介入群で FEV1（L）、FVC（L）、FEV1/FVC%、DLCO%および6分間歩行テスト、SF-36（8つの2グループ）で統計的に有意あり。SAS や SDS では不安のみが統計的有意性あり。</li> <li>・今回の報告では、呼吸リハビリテーションが、COVID-19の呼吸機能や QOL、不安を改善するが、高齢者のうつ病には殆ど改善を認めなかったとされている。</li> </ul>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Covid-19 患者に対するリハビリ効果は国内外でも殆どみられない。貴重な介入研究報告。現在、国内での Covid-19 専門病院もみられるようになり、今後セラピストが関わる可能性もある。今後対応するセラピストにおいては、二次障害予防のためにも参考にして頂きたい。</li> </ul>